

(様式第4号)

市民による事業評価(青少年の育成) 会議概要

1 審議会名	市民による事業評価(青少年の育成 第10回)
2 日時	平成25年10月16日(水曜日)午後2時から午後4時まで
3 会場	塩田公民館 小ホール
4 出席者	田村 保TL、小池正彦委員、小岩井礼子委員、佐藤満博委員、杉崎友子委員 関 和弘委員、高橋 仁委員、山浦正嗣委員、渡辺 務委員
5 市側出席者	浅野生涯学習課長、倉島学校教育課長、佐藤スポーツ推進課長 神林中央公民館長、中村行政改革推進室長、西澤行政改革推進係長、 他行政改革推進室1人
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成25年10月17日

協 議 事 項 等

1 開 会(中村行政改革推進室長)

2 チームリーダーあいさつ(田村チームリーダー)

以下、チームリーダーを「TL」、サブチームリーダーを「STL」

3 議 事

(1) 前回会議録の確認

・修正なく承認

(2) 評価のまとめについて

(TL) 本日でできればまとめていきたいと思うが、軽微な修正は任せていただきたい。

「諮問されたテーマ及び審議の視点に対する大きな方向性」の文章についてだが、推敲が完全ではないため、方向性について確認いただきたい。

『情報メディア等が急速に普及するに伴い、人々のくらしや考え方がますます複雑多様化し、青少年を取り巻く生活や環境が大きく変化してきている中で、学校や地域でひき起こされている青少年による様々な言動が、社会問題にまでなっているのが現状です。

その背景には、拡大を続ける情報の中で過剰な自立を割り振られた青少年の苦悩する姿と、それを支える家庭や地域の教育力の低下をうかがうことができます。

このような状況のなかで、地域の大人が子どもにどう関わっていけばよいか。その手がかりとして考えたのが、いつからか失われてきていた、異年齢の子ども集団による活動の見直しです。

地域における子ども会活動の活性化を核に、それを支える家庭・地域・学校の連携と役割の充実、自然体験を始めとする地域社会へのかかわりなどを見つめ直すことが重要になります。

そこで、体験を重視した子ども社会の復活と創造という方向性を常に目指した事業を実施することが重要であると、当チームの意見がまとまりましたので、ここに提言いたします。』としたが、如何か。

(委員) 「家庭や地域の教育力の低下」に「教育力」とあるが、ニュアンスは分かるが若干分かりづらい気がする。別の表現とした方がいいのではないか。

(TL) 問題を持ち悩んでいる子どもたちを支えていくのは地域や家庭と考えると、地域や家庭が十分支え切れていないのではないかと、という意味で表現した。「教育力」という表現は、使いやすいこともあったが、別の表現も検討したい。

(委員) 「家庭や地域のそれを支える力」としたらどうか。

(委員) 一般的には「地域力」とも言われているが。

(TL) この文章を朗読するならば、話し言葉を混ぜていかないと分かりづらくなってしまいかもしれない。検討させていただきたい。

今回の論旨としたいのが、以前は頻繁にされていた外遊びや仲間づくりが失われてきたため、子どもたちの社会性が失われてしまっている、ということなのだが、この点についてはご理解いただけるか。

(委員) 子どもは外で遊びたいのだが、外に仲間がいないため家に籠りがちになってしまうと思う。外に出たがらない親もいるため、子どもを外に出すには、先ず親の理解を得ることから始めないとならない。

(T L) 子どもにしても、外へ出てどこへ行けば仲間がいるのか分からない。

(委員) 後段に、「それを支える家庭・地域・学校の連携と役割の充実」とあり、「教育力」の補完にもなっているので、このままでいいと思う。

(T L) 学校も子どもを外へ出すような工夫をしてくれているのか。自分は、外遊びを行う「わんぱく外遊び」というクラブを主宰しているが、子どもたちは様々な外遊びを時間いっぱい楽しんでいる。しかし、一般的には、子どもが外で遊ぶようにも自然の中での遊び方が分からない現状がある。

(委員) 一例申し上げますと、自分の小学校6年になる子どもは、バスケットボールをやりに休日になると早朝からお城下の公園にあるバスケットコートに遊びに出かける。そこでは、バスケットボールを目的に様々な子どもたちが集ってきているため、自然と異年齢との交流が生まれ、バスケットボール以外の遊びもしているようである。過日、その仲間が自宅に遊びに来た際も、最終的には外に遊びに出ていってしまったことがあった。親が過干渉せずに子どもたちにある程度任せていたところ、バスケットボールがきっかけとなり、自然と異年齢交流や外遊びに発展していった。

子どもたちは、何かきっかけがあれば自然と遊びも交流も広がっていくことが分かった事例であった。

(T L) 非常に良い事例と思う。

(委員) 遊ぶ場所の提供ということも大切なのではないか。

(T L) 外遊びの体験が無いということは大きい。また、早朝に遊びに出かけるということもポイントと思った。

(委員) 子どもの仲間たちは誰も携帯電話を持っていない。信頼関係の上でのこととは思いますが、親の知らない時間を意識的に作ることによって、子どもだけの世界も作られていくのではないか。

(T L) 遊びには危険は付き物で、そのことが子どもを成長させる、と親が考えることができるかも大切なことではないか。また、子どもたちが忙しすぎて遊ぶ時間がないと言われるが、朝の時間の使い方に気が付かされたい事例を聞くことができた。

学校現場では、子どもの段取り力が落ちていっているとされている。指示がないと自分で行動できない子どもが増えているよう。子どもの本来持っている力を引き出させたい。

チームとしては、「体験を重視した子ども社会の復活」「そこから発展する力」について論旨としていきたいと思うが、表現については検討したいと思う。

(事務局) 僭越ながら事務局からだが、結びとして『体験を重視した子ども社会の復活と創造という方向性を常に目指した事業を実施することが重要』とあるが、なぜ体験活動が大切に触れられていないため、若干唐突な印象を受ける。

また、前段として、子ども会活動の重要性について触れられているが、子ども会活動のみとしてあるところが気になった点である。

(委員) 先日、夕張市の保育園の様子を放送していたテレビを見ていたところ、こちらが心配するくらい元気に外で遊んでいる子どもの様子があった。幼少の頃のそのような自然に親しむ体験が少ないから成長するにつれ外で遊ばなくなってしまうのではないかと感じた。

(委員) 親が子どもを外で遊ばせないからではないか。

(委員) 様々な体験をすると段取りもよくなるし、協調性も養われると思う。

(T L) 知識はインターネットの普及もあり十分すぎるほど得ることができるが、知識を実践に結び付ける体験の減少が問題となっている。

(事務局) 子どもが外で遊ぶことよりも、知識を増やすことに重きを置く保護者が増えてきているように思う。そうではなく、子どもたちの成長には様々な体験活動が必要であると訴えていかなければならないと思う。

(委員) 最期の段落の文頭に「生きる力を養うために」と加筆したらどうか。

(委員) 子どもへの働きかけより、親への働きかけをという意見だが、その親を育ててきたのは私たちの世代でもある。

また、今の中学生は部活や社会体育、塾などで忙しく、体験しようにも時間がない現状もある。

(事務局) 中学生ともなれば体力づくりでいいと思う。小学校低学年までで体験活動を十分する必要があると思う。

(T L) 子どもたちに活動をさせたいにも関わらず、家庭や学校等でそうできない状況を作っているの、今回、評価の対象となっている各事業を工夫することで、改善して行ければと思っている。

また、「地域における子ども会活動の活性化」と子ども会の活動に限定した表記としてある点については如何か。

(委員) 「子どもによる活動」としてもいいのではないか。

(T L) 子ども会活動を包括する意味で「子どもによる」とするならばいいのではないか。そのような表現に改めたいと思う。

次に「事務事業評価結果」について、事務局案として修正した箇所があるので、それについて説明願いたい。

(事務局) ・事務局案について説明

(T L) 「ポイント」を加筆した意味は何か。

(事務局) 内容を分かりやすくまとめ、見出しの意味として付け加えたもの。

(T L) 表現の仕方に統一感がないが、「ポイント」を見出しとして付けることは如何か。

(委員) 了承。

(T L) 表現は、今後、調整することとしたい。

10頁の「地域青少年育成指導者養成講座」については、現在、事業名が変更となっているので、「野外活動リーダー養成講座」に改めた。また、「改善のポイント」二つ目、「要望を取り入れたり」「紹介するなど」に修正したが如何か。

(委員) 了承。

(T L) 他に意見はあるか。

(委員) 6頁ポイント二つ目の後段は、新たに項目立てしたらどうか。

(T L) 内容が変わらないため、そのようにしたい。

(事務局) 前回も議論させていただいたが、「少年補導委員」が「場」を整備することは不可能と思う。「場」があり、そこに子どもたちが集まって来る際に安全を確保し、見守るということなら可能と思うが、「環境の整備」という意味でいいか。

(T L) 「環境の整備」という意味合いではある。

(委員) とすると、整備するためにはどこへ要望したらいいのか。

(事務局) ハードの整備であるならば、地域・自治会の総意として要望を上げていくことになると思うが。

(委員) 自治会から要望を上げることはないように思うが。

(事務局) 地域の総意であるならば、やはり自治会からの要望になると思う。

(T L) 自治会で要望を上げる際には、行政の窓口はどこか。

(事務局) 内容によっても若干異なるが、まずは市民参加・協働推進課になる。

(T L) 「青少年が安心して遊べる環境の整備」と修正することとしたい。

また、親への働きかけについては、提言となるとなかなか踏み込みづらいところではあるが、「青少年育成推進指導員制度」を活用し、自治会単位で学習の場を設け啓発していく

程度になってしまうか。

(委員) もう少し踏み込んだものになりたい。「地域住民による学校支援事業」の一環として、例えば、PTA総会等で啓発する講演の場もあればいいと思うが。

(委員) 学校で保護者が集まる機会に啓発するのは効果的と思う。

(T L) 6月に「いじめ防止対策推進法」が公布された。この法律の中で、保護者の責務として「保護者は、国、地方公共団体、学校の設置者及びその設置する学校が講ずるいじめの防止等のための措置に協力するよう努めるものとする」とされた。また、「保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、その保護する児童等がいじめを行うことのないよう、当該児童等に対し、規範意識を養うための指導その他の必要な指導を行うよう努めるものとする」としたところもこの法律の特徴である。

このことから分かるが、保護者も一定の責任を負うことになるとすると、この青少年の育成についてもPTAと協力して進めて行きたいと思う。

(委員) 「諮問されたテーマ及び審議の視点に対する大きな方向性」の2に「情報の中で過剰な自立を割り振られた青少年の苦悩する姿」とあるが、もう少し分かりやすく「自己責任を強いられている青少年の苦悩する姿」としたらどうか。

(T L) 子どもが持っている力量以上のことを要求され、子どもたちが打ち拉がれているという現実がある。

子どもが物事を理解するには時間が掛かる場合もある中で、理解できないのは子ども自身の責任とされてしまうことがある。これでは、子どもは辛いのではないか、ということを書いたかったのだが、分かりづらいとすれば再考したいと思う。

(事務局) 「ポイント」について、若干、委員の思いと齟齬があるところがあるように思う。

4頁「青少年育成推進指導員制度」の改善のポイントとして「関係団体との連携と役割を果たすための仕組みづくり」とあるが、これでは「青少年育成推進指導員制度」を改め、又は廃止し、新たな仕組みを構築すると捉えられてしまわないか。委員のご意見としては、「青少年育成推進指導員制度」が機能していないので活動方法を改めたら、ということと認識していた。

よって、「青少年育成推進指導員」がその役割を果たすための条件整備、環境づくりの推進がポイントになるように思うが。

(T L) この点については、再度検討したい。

(事務局) 6頁「少年補導委員」の改善のポイントとして「類似目的の団体の役割の整理」とあるが、時代の変化とともに青少年の活動範囲が変わってきている中、これまでの「少年補導委員」の活動内容を見直さなければならない時期に来ている、というご意見が多かったように認識している。

これまでは、青少年が非行に進まないよう未然に防止する策として「少年補導委員」が存在していたが、今後は、青少年が安心して外で遊べるよう保護、育成にその役割を変えていく必要がある、というご意見であったと思う。

(委員) 行政に提案し、行政にその後検討してもらいたいということならば、このままでもいいと思うが。

(T L) 「ポイント」をもうひとつ設けることを検討したい。

(事務局) 8頁「子ども会育成連絡協議会」の拡充のポイントとして「自治会活動内の位置付けと研修の充実」とあるが、自治会の活動として位置付けて欲しい、ということであるならば表現を再考した方がいいと思う。「自治会活動への位置づけ」、「自治会活動としての位置づけ」とした方が、委員の本意に沿った表現のように思うが。

また、「これまで以上に会員に対する研修が必要と考える」とした方が、分かりやすいと考えるが如何か。

(T L) 「ポイント」をもう少し明確な表現に改めたいと思う。

(事務局) 10頁の「野外活動リーダー養成講座」の改善のポイントは、ひとつにまとめ「実践的研修の強化」としたらどうか。

(T L) これについても再考することとしたいが、任せていただいてよろしいか。

(委 員) 了承。

(T L) 修正したものについて改めて委員にお送りしたいと思う。

4 その他

- ・次回は開催せず、正副チームリーダーと事務局で調整することです承

5 閉 会

(T L) 本日は時間となったのでこれまでとしたい。これまでの審議に御礼申し上げます。